



学校だより

令和5年 6月 29日
No. 4 7月号
横浜市立瀬谷第二小学校
校長 山崎 由美

学校教育目標

友情わく かわく 希望わく 毎日わくわくする学校

遊びで非認知能力を育てよう

校長 山崎 由美

先日、新聞に全日本女子バレーボールチームの真鍋監督の記事が載っていました。真鍋監督というベンチでタブレットをもってアナリストたちから送られてくるデータを基に戦術を立てるIDバレーで有名です。その真鍋監督が、「どんなにデータを分析してもそれを上回るのが勝ちへの執念やチームワークだ」と言っていました。

“学び”にも同じことが言えます。どんなにたくさんの知識があっても「なぜだろう」という知的好奇心や粘り強く考え続ける力がないとその知識を活用することができません。今、“学び”に必要なのは、テストなどの数値で計れる“認知能力”より“非認知能力”だと言われています。この“非認知能力”は、人と協力できる力や感情のコントロール、目標達成のための粘り強さなど数値では計れない力のことです。これが今、世界的にも注目されています。真鍋監督が言っていた“データを上回る人が持っている力”はこれに通じるものではないかと思えます。

では、この“非認知能力”を育てるにはどうしたらよいのでしょうか。実は、特別なことをする必要はないのです。子どもの世界の中に当たり前にある“遊び”を大切にすることで育つと言われていています。ただし、この“遊び”はゲームなどのようにプログラムされたものを与えるのではなく、自分で決めたり工夫したりできる時間や空間を与えることが条件になります。“遊び”というと子どもの力が育つ感じがしなくてもいいかもしれませんが、そうではありません。“遊び”は、子どもが環境に関わり、自発性に支えられて展開するものです。そこには自己決定や他とのかかわりが存在します。自分への理解を深めたり何かをやり遂げる意欲をもったりすることは、教えて育つものではありません。体験を通して育つものです。あれこれ試行錯誤しながら、やってみたいことに粘り強く取り組む経験は子どもにとって大きな財産となります。

いよいよ7月。このようなことが思い切りできる夏休みを迎えます。時間的にも環境的にも縛りが少なく、自己決定できる機会が多くなる夏休みです。大人から見ると効率が悪かったり、くだらなく見えたりすることも子どもの“遊び”の中では大切なことです。“遊び”の中から子どもらしい「なぜ」を大切に「挑戦」をたくさんさせ“非認知能力”を育てていきましょう。それが大人になった時に予測困難なことを乗り越える力につながります。それには、我々大人がおおらかに子どもを受け止める、待つことが必要になりますが。

長い夏休み、子どもたちが自由な時間にたくさん遊び、自己決定し、人と関わりながら過ごせるよう保護者、地域の皆様の温かい見守り、声掛けをどうぞよろしくお願いいたします。

☆瀬谷第二小学校ホームページに、日々の学校の様子を、「わくわくレポート」として不定期でアップしています。合わせてご覧ください。

